

2学期のスタートにあたって

学校長 杉森 伸吉

緊急事態宣言やデルタ株の影響の若年化などを受けて、緊急に始業式を1週間遅らせました。今後も、様々な点で予断を許さぬところですが、昨年は夏休みが3週間余りだったのに対し、今年は約6週間と倍の長さになりました。ご家庭でも、様々な制約がある中で、有意義な生活ができたことと存じます。お子さんたちの暑中見舞いからも、工夫していろいろな遊びなどを行い、楽しく有意義に夏休みを過ごしている姿が目に見えようでした。

様々な学校行事が自粛される中で、学芸大の場合は、附属学校運営部が12校園の附属学校の行事などについても全体中止・延期の方針を出しています。そのため臨海学校などの宿泊行事も、絶対に安全に実施する自信はありましたが、断腸の思いで中止・延期せざるを得ませんでした。

そのような中でも、東京オリンピックが開催されたのは、うらやましくも、よかったことでもあったと思います。というのも、自分が体を動かすだけでなく、他者が運動するのを見ることも、運動脳の発達にはプラスになるからです。トップアスリートたちも昨年の中止を受けて、再調整を行い、今年の夏に日本の各地で最高のパフォーマンスを披露しました。メダルの数も過去最高でしたが、今まで一度もメダルを取れなかった競技で、初めてメダルが取れたものもたくさんあります。そういう競技は、メダルが取れないという「心理的な壁」を今回メダルを取れたことによって崩すことができ、次回以降はさらに自信を持ってプレーできるでしょうし、メダルを取るのが当たり前、というような気持ちが競技成績の向上にも直結するでしょう。

私たちも、日常生活の中で、様々な心の壁に挑戦を阻まれたり、壁を突破したりしながら生きています。心の壁というのは、本当はまだまだいけるのに、「どんなに頑張っても、ここから先に行くは無理だ」という限界をもうけることで生まれます。日常生活の中でも、「〇〇だからダメだ」と思うことがたくさんあります。そこを、「〇〇だけでできる」と変えることが大事でしょうし、パラリンピックは「障がいがあるからダメだ」でなく「障がいがあるけどできる」という人々が心の壁を超える感動を、オリンピック以上に見せてくれていると思います。

本校でもこの8月は、様々な工事などを行いました。高学年の教室で更衣の仕切りカーテンの設置や、教室の古い配管を撤去し、教室を少し広くしたりなどです。学校として大変ありがたかったのは、過去3年間、「工事費が高いからダメだ」と思ってあきらめていた体育館への渡り廊下工事を、これまでのPTAの皆様のご協力、実現していただきましたことです。同時に柱も塗り替え、体育館の水道もタイル化しました。真ん中に点線を入れて左右がすれ違いやすくし、柱の位置に各クラスの色を使ったフラワー模様を配置し、通行する人の希望がかなうように、「フラワーロード」と名付けました。タイルなので数十年長持ちしますが掃除も必要になるので、生活団での清掃なども、ぜひ工夫をお願いしたいと思います。8月22日に、平成30年から令和3年度までのPTA会長や運営委員で開通式を行いました。2学期も、できるだけ昨年と同等以上に行事を工夫して行いたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。